



府六だより

府中市立府中第六小学校

11月号

令和6年10月31日

(児童数 715名)

校長 小林 邦子

よりよいコミュニケーションを考える

校長 小林 邦子

10月は、コミュニケーションについて考える機会が幾つかありました。

一つは、5年生と出かけた府中市立小学校美術鑑賞教室での「対話型鑑賞」という作品の味わい方です。事前学習として図工の時間に一つの絵をじっくり見て、何が描かれているか、どんな感じがするか、なぜそう思ったのか話し合い、学級でたくさんの発見がありました。その絵は、以前から図工室に飾られていたそうですが、注目し、互いに気になったことを話し合う中で、作品がどんどん見えてきたのです。



美術館のルールには、「さわらない」「はしらない」「さわがない」の三つがありますが、小さな声で、考えたことを対話しながら鑑賞すると豊かな見方ができること、タイトルや作者の背景を知るとさらに見方が深まること、対話のよさを学びました。

二つは、1年生が特別授業で学んだ「Yes and コミュニケーション」という手法です。話し手の話を聞き手が「いいね」と受容的に受け止め、さらにやってみたいことや自分のアイデアを加えて話を続けると、どんどん話すことが楽しくなっていきます。反対に、何を話しても「でもね」と否定的に受け止められると、話し手はつらくなり、話が续かなくなりました。相手の言いたいことを受容的に受け止めると、互いの関係も話の内容も豊かになることを学びました。

11月は今年度2回目の「ふれあい月間」です。10月28日(月)の児童朝会で、相手がいやだと感じたら、いじめになることを話し、どんなことがいじめになるか考えてもらいました。

ふざけただけ、知らないふりをしただけ、思ったことを書いただけ、こっそり話しただけ…
相手はどう感じているでしょうか。長州小力さんという人が次のようなことを言っています。



「友達をからかったり、ふざけて悪口を言ったりすると、みんなが笑う。言われた本人も笑うことがある。

君はそれをいじめとは思っていないかもしれませんが、言われた相手は深く傷つくことがあります。自分の態度や言葉がどう伝わっているか、相手の気持ちを考えることは、とても大切です。」

「いじめに苦しんだ友達がいじめた人の名前を書いたことがあります。その中に、周りでふざけたり笑ったりしたことはあったけど、自分がいじめていたとは考えていなかったという人がいました。でも、いじめられた友達はそう思っていないのです。」(参考「いじめている君へ」2006年12月)

今月は「ふれあい月間」を通して自分たちの生活を見つめ、相手の立場に立って想像すること、自分も相手も大切にできるコミュニケーションの力を高めていきます。11月15日(金)・16日(土)の「学習発表会」では、学年で協力し、一つの作品を創り上げた成果をご覧いただきたいと思います。どうかご協力をよろしくお願いします。

【体調にお気を付けください】 発熱や咳による欠席が多く見られます。体調が優れないときは、無理をせず休養に努めてください。登校の際は、咳エチケットを心がけ、マスクの着用をおすすめします。